

令和2年産水稻の作柄について

農業革新支援担当 村田 大樹

(1) 本年気象の特徴

本年の水稻栽培期間の日平均気温の推移は図1のとおりで、梅雨期間中の低温と梅雨明け後の高温が特徴的でした。

また、6月から8月初旬まで間断なく降雨が続きました。(図2)

(2) 作期ごとの生育概要

早期栽培では、初期生育は順調に経過しましたが、7月の低温寡照で出穂期は平年より遅れました。梅雨明け以降は高温が続き生育の遅れを取り戻しほぼ平年並みの生育となりました。収穫は早いもので8月中旬から始まり収穫物は粒張りも良く、品質・収量とも良くなりました。

早植栽培では、初期生育は順調に経過しましたが7月の低温寡照の影響で生育は抑制気味となり、有効茎数はやや少なく軟弱徒長気味の生育となりました。また、中干しが徹底できず一部で倒伏が認められました。病気では葉いもちの発生が多く認められ、穂いもちも発生が認められました。出穂期は平年並みでしたが、登熟時期の8月が高温に推移したため白未熟米等により等級の低下を招きましたが、多照により収量は平年並～やや多い傾向でした。

普通期栽培では、田植作業は平年並みに進みましたが、7月の低温寡照で分けつが抑制され茎数が少ない水田もありました。中干し不足で一部の水田で倒伏も認められました。また穂いもちの発生が多く認められました。出穂期に高温に遭遇したものは白未熟米等などによる品質低下が認められました。

麦あと栽培では出穂期以降品質は改善されましたが、全般的に等級は低くなりました。収量は茎数不足のため平年より低い傾向となりました。

(3) 作況指数(12月9日発表)

令和2年産水稻の作況指数は東部地域が「102」、西部地域が「101」埼玉県全体では「102」となりました。

(4) 農産物検査結果(10月末時点)

水稻うるち玄米の10月31日時点での農産物検査結果は表3のとおりで、品質低下の理由は白未熟粒や胴割米などの発生によるものが多くなりました。

(5) 品種別農産物検査結果(10月末時点)

農産物検査結果から品種ごとの格付けは、表4のとおりとなりました。「彩のかがやき」は10月までの結果では「コシヒカリ」「彩のきずな」よりも1等の比率が低くなりました。

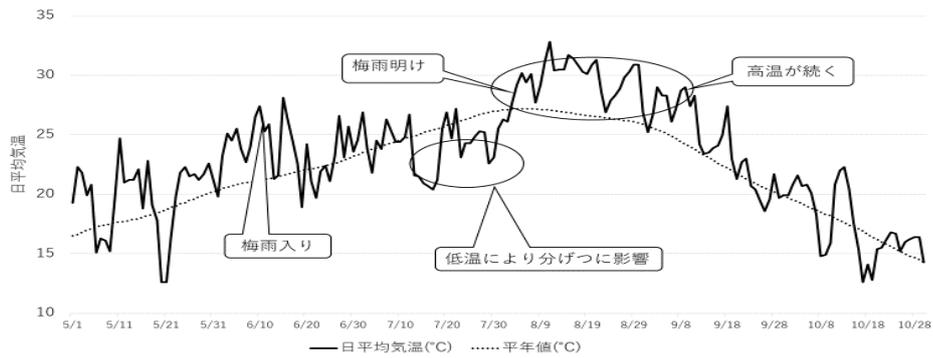


図1 日平均気温の推移(熊谷地方気象台)

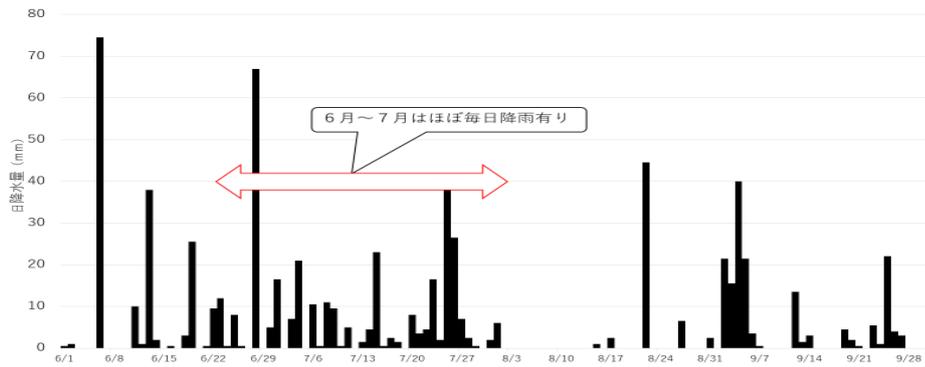


図2 日降水量の推移(熊谷地方気象台)

表1 生育相の出穂期、成熟期

	出穂始(月日)			出穂期(月日)			成熟期(月日)		
	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差
早期栽培	7/17	7/22	-5	7/26	7/26	0	8/31	9/3	-3
早植栽培	8/10	8/10	0	8/13	8/13	0	9/24	9/7	-3
普通期栽培	8/16	8/14	2	8/17	8/18	-1	9/26	10/1	-5

表2 令和2年産水稻の作況指数(12月9日発表)

県全体	西部地域	東部地域
102	101	102

関東農政局令和2年12月9日公表

表3 令和2年産米の農作物検査結果(水稻うるち玄米) 令和2年10月31日現在(速報値)

等級区分	1等	2等	3等	規格外
比率	48.3%	34.7%	14.6%	2.5%

農水省令和2年11月30日公表

表4 令和2年産米の銘柄別検査結果(うるち玄米) 令和2年10月31日現在(速報値)

	1等	2等	3等	規格外
コシヒカリ	46.7%	40.2%	12.3%	0.8%
彩のきずな	74.2%	23.1%	2.4%	0.2%
彩のかがやき	19.6%	46.7%	29.9%	3.8%

農水省令和2年11月30日公表